

【vol.35】マルーン 5 の楽曲でキーを分析してみる～その 1～

こんにちは、大沼です。

さて、前回までで、インターバル関係の知識を覚える作業が一段落したので、今回からは実際の楽曲で、覚えたことを使っていく内容に入ります。

参考にする楽曲は、

“Maroon 5(マルーン 5)”の『payphone』

で、いきましょう。

Youtube 原曲リンク

http://youtu.be/5FIQSQuv_mg

(※万が一、リンク先が削除されている場合は、音源を購入するか、曲名等で検索してください)

で、最初にネタばらしをしてしまうと、この曲、コード進行が(ほぼ)1 つしかありません。なので、かなり分かりやすいと思います。

と、言う事で、そのコード進行はこちら。

The image shows a musical score for the first four measures of the song 'Payphone' by Maroon 5. The score is written in 4/4 time and G major. The chords are Eadd9, B, G#m7, and F#sus4 (F#). The first measure has a '1' above it, the second a '2', the third a '3', and the fourth a '4'. Below the staff is a TAB section with 'T', 'A', and 'B' labels.

もうずっと、ほぼこれ一本です。

細かいことを言えば、パートによっては、多少、コードの中身を変えてもいいんですが、基本的にはこの進行ですね。

コード・ヴォイシングは、譜面には載せていませんが、自分の知っているフォームを当てて、音源と一緒に弾いてみてください。

さて、コードを確認した所で、この進行を、これまで勉強してきた知識と照らし合わせてみましょうか。

まずは楽曲の重要な要素である、

『key』、『ダイアトニックスケール』、『ダイアトニックコード』

についてです。

譜面のコードには、add9 やら sus4 やらがついていますが、とりあえずそれらを取っ払って、トライアドまで単純化すると、

E→B→G#m→F# (→E)

と言うループですね。

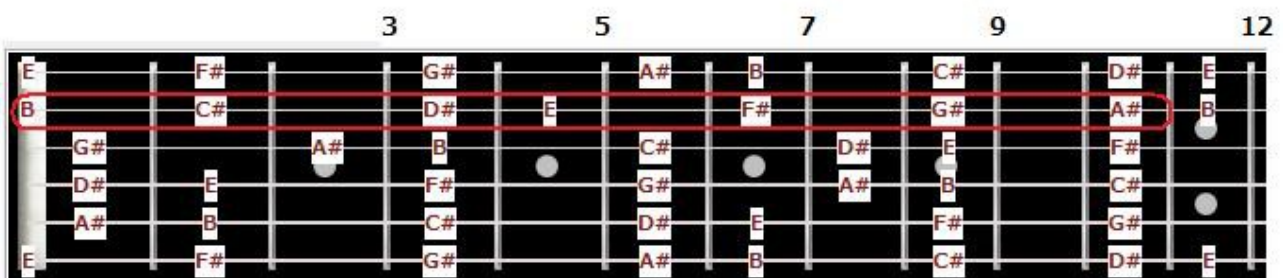
(※sus4 と通常のトライアド(今回の例では F#sus4 と F#)は、同じコードとして扱うわけではないのですが、今は進行の分析としてわかりやすいので、F#一本にまとめます)

まず、この曲は key=B(B メジャー)です。

(※キー判別の仕方はまだ解説していませんが、今後分析と同時にやっていきます。)

で、key=B なので、キーに対応するダイアトニックスケールは、B メジャースケールですね。

B メジャースケールの構成音は、B、C#、D#、E、F#、G#、A#の7音です。



スケールを確認する場所はどこでも OK です。
好きなポジション、フィンガリングでいきましょう。
(※図では 2 弦上で見えています)

次に、key=B の曲を主に構成しているコードは、B メジャースケールから成り立つ
ダイアトニックコードと言う事になるので、その一覧がこちら。

I、B (BM7)
II、C#m (C#m7)
III、D#m (D#m7)
IV、E (EM7)
V、F# (F#7)
VI、G#m (G#m7)
VII A#m b5 (A#m7 b5)

見事に、先に挙げたコードが出てきていますね。

I、B (BM7)
II、C#m (C#m7)
III、D#m (D#m7)
IV、E (EM7)
V、F# (F#7)
VI、G#m (G#m7)
VII A#m b5 (A#m7 b5)

よって、ここまでの分析から、この曲のコード進行は、

IV → I → VI m → V

の進行と言えますね。

ずっとこの進行なので、転調などのアレンジで B キーから離れることはありません。

なので例えば、この曲を流しながら、B メジャーペンタや B メジャースケールなどで、
適当にソロを弾いたりして遊ぶ事もできます。

ほとんど何も考えなくても、気持ち良く弾けます。

厳密に言えば、コードを邪魔する音に当たる可能性があるので、本当に何も考えなくても良い、と言うわけでは無いんですが。

まあでも、現時点ではそこまで気にする必要もないので、曲を流しながら、自分の持っているフレーズを色々試して遊んでみてください。

と、言う事で、いつもより短い感じがしますが、今回はここまでです。

まず、今回で重要なポイントは、今まで学んだこと(key やスケール、コードなど)がちゃんと使われていることを理解して、じっくりとコード進行を確認してみることに。
(※コードをインターバル的にも見れるように)

そして、これまで覚えたスケールを使って、アドリブをしたりして遊んでみる、と。

次回は、同じ曲を題材に、もう少しつっこんだ話をしていきます。

たとえば、僕は講座を作る為に、この曲を耳コピしているわけですが、2つ目のコード(2小節目)を聴き取った時点でkeyがわかりました。

「わかった」と言うよりは、正確に言うと「予測がついた」のですが、なぜ、『2つ目のコード(2小節目)』で曲のkeyがわかるのか？

そういった所の理由や分析の手順を解説します。

この講座の最終目的のひとつに、

『自分で耳コピが出来るようになること』

というのがありますね。

今やっていることはその根幹の部分です。

ここ最近まとめて覚えていた知識がどのように繋がるのか？
この辺りを考えていきましょう。

では、また次回。

ありがとうございました。

大沼